

責任感ある者とはどういう者のことか？——前 SOTN 記事

訳注への補遺

Greatchain

2018/11/12

前記事の「訳者注」で私は、結論の部分を先に読んでみるように言い、今のアメリカで荒れている闘争の本質は、善悪闘争であると言った。その一部を再録する。

「民主党の指導者層は、あまりにも妨害と無法を維持することに必死なので、責任感を持つ市民を、これまでになかったほどに、永久に離反させるだろう。あらゆる場所に混乱の種を植え付けようとする彼らの習癖に基づく行動は、2020 選挙のときまで、更に強化されていくだろう。」

これはよくわかっている人の予言であり、「あらゆる場所に混乱を植え付ける」といっているのは、「陰の政府」としての、イルミナティという陰謀団の Order out of Chaos（混乱からの秩序）という戦略のことで、彼らにとって混乱は、彼らの秩序 New World Order を産み出すのに必要なものである。彼らは、その行動が敗北に向かうと、意識の底ではわかっているながら、その使命を追求している。もちろん民主党は昔からこんな党ではなかった。急速にそのような使命を帯びるようになった。

ここでは特に、「責任感をもつ市民」と言っているところに注目したい。「責任感」ということばを選んだのは、いい加減な選択ではないであろう。それは「正義感」でも「理性」でもない。もっと深い意味があると思われる。私は前に、プーチン大統領の「神に対する、祖国に対する責任感」と言った。この観念は、一国の大統領だろうと、名もない市民だろうと同じである。これは、創造者の立場に立ち、創造者に協力する者の責任感でなければならない。そこに立たなければ、我々は正しく生きることも、その方向を見つけることもできない。多くの人は、長年の誤った教育のために、「創造者」などと言うと、それは宗教信者という特殊な人種の考えるものだと思っている。それは馬鹿げている。長い歴史を見れば、無神論者などというものは例外的な、変わり者である。我々の先祖は、創造者のことを「造化」と言ってきた。これは特に、私と同世代の、左翼的洗脳を受けてきた人、特に学者・ジャーナリストの方々に申し上げたい。

我々の「自由」には、その根がある。根を持たない自由は放縦にすぎない。政治的にはこれをリベラルと言って、ほめ言葉であることが多かった。アメリカでは現在、民主党が、「文化マルクス主義」を中心に置くことによって、根のない混乱と無秩序を世界に宣言している。そしてこれは、特に、人間の性（セックス）の解釈に現れる。伝統的な男女関係にこだわることはないでないか。夫婦は別に男女一対でなくてもよく、そもそも男女の区別そのものが（ダーウィンの考える種の区別と同じで）はっきりしていないではないか。まあ、そこまではよいとしよう。そこから発展して、セックスに大人と子供の区別もいらないではないか、と言い出したところから、彼らは人間を引っ掴んで、地獄へ連れて行くことになる。そしてそこから、彼ら現在の民主党の役割が、何を狙ったものであったのか、彼らの正体がわかるようになる。

彼らは実は、サタンと組んで、その役割を果たそうとしている。ペドフィリアの最近のニュースに、こんなのがあった（neonettle, 11/5）——「ペドファイル、75歳、の主張：6歳の犠牲者が彼を“誘った”のだ」

「6歳の少女を性的に襲って投獄された、75歳のペドファイルが、法廷に対して、彼の犠牲者が、彼を“誘った”とき、彼女は“自分が何をしようとしているかを知っていた”と主張し、彼女は“それを求めていた”と言った。」

これに関する翻訳紹介を始めてから、今日に至るまで、同じ趣旨の供述をする者が圧倒的に多いことに、読者も気づいておられるだろう。法王などは、事情を確かめもしないで、ペド僧を非難するのはやめよ、とまで言っていた。これは前から言っているように、悪霊現象としか考えられない。だからと言って、罪が消えたり軽くなったりするのではない。しかし、そういう事実は心得ておくべきである。私に霊的能力があるわけではないが、民主党のように、「あらゆる場所に混乱の種を植え付けるような」、意識的に**無責任な行動原理**を取ろうとする者には、サタンが侵入してくるのが当然であろう。破壊や犯罪や、恨みや復讐を、いつも心に抱いている者には、同じ波長の人格が侵入してくるのは当然である。今までは、そうでもなかったかもしれない。しかし今、そういう顕著な傾向を持つ時代に入ったと考えるべきである。

Zeitgeist（ツァイトガイスト）は「時代精神」と訳すドイツ語だが、これは実在し、支配する、現代の「時代霊」でもある。これが今、そして今後ますます、地球の表面を覆いつくし、我々を狂わせているものと考えられる。つい昨日のニュースでも、妻の1歳の連れ子を性的に暴行して、死なせた男の事件が報道されていた。このよう犯罪者が刑務所に入れられると、囚人仲間から、残酷に殺される例がいかに多いかは、注目に値する。ペドフィリアは、神を殺すに等しい許せない犯罪だという本能的知識が、極悪反にでも具わっているという

確かな証拠である。ごく最近の例（ここでは剃刀でめった切りされた）：

<https://neonettle.com/news/5546-leader-of-pedophile-grooming-gang-mutilated-in-prison-razor-blade-attack>

問題はそれが、あなたにも私にも起こりうるということである。